

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人愛知県文化振興事業団
施 設 名	愛知県芸術劇場
助成対象活動名	劇場による地域文化向上プロジェクト
助 成 期 間	5 (年間)
内 定 額	61,373 (千円)

事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）



(2) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	愛知県芸術劇場ミニセレ 島地保武×環ROY 『ありか』 再演	平成30年6月23日 (土)、24日(日)	出演及び演出：島地保武、環ROY 振付：島地保武／音楽：環ROY 平成28年度、平成29年度と各地で公演を重ねてきた本作品を、凱旋公演として愛知県芸術劇場にて再演。出演は、世界的な振付家のウィリアム・フォーサイス率いるフォーサイスカンパニーで活躍していた舞踊家の島地保武と、ラップ・アーティストとして、異ジャンルのアーティストとのコラボレーションやNHK教育テレビでも活躍する異色のラッパー環ROY。2年間の共演を踏まえて、改めて作品を見直しつつ、より先鋭的かつ質の高い作品の凱旋公演を実現した。	目標値	300人
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	275人
2	愛知芸文フェス／愛知県芸術劇場ミニセレ 第17回AAF戯曲賞受賞記念公演『シティⅢ』	平成30年10月26日 (金)、27日 (土)、28日(日)	作家・作品名：カゲヤマ気象台『シティⅢ』 (第17回AAF戯曲賞大賞受賞) 演出家：振子びじん 第17回AAF戯曲賞の大賞受賞作品、カゲヤマ気象台・作『シティⅢ』を、劇場プロデューサーによって製作及び上演した。公演製作にあたり、劇場職員が制作面・舞台技術面で作品創作過程に一から関わり、アーティストと一緒に劇場主体で作品を創作した。戯曲の審査から公演のプロデュースまでを一貫して愛知県芸術劇場が主体となって行うことで、文化の発信拠点として地域の拠点劇場の役割を果たした。	目標値	400人
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	288人
3	愛知芸文フェス イスラエル・ガルバン『黄金時代』	平成30年11月2日 (金)、3日(土・祝)	演出・振付：ペドロ・ロメオ 出演：イスラエル・ガルバン、ダビ・ラゴス(カンテ)、アルフレド・ラゴス(ギター) 現代的なフラメンコの中でも、最高峰のアーティストとされる、イスラエル・ガルバン。フラメンコは、ダンスだけではなく、ギターやカンテ(歌)といった音楽的な要素の存在も非常に大きい。今回の来日では、ダンス(バイレ)と歌(カンテ)と演奏(ギター)によるフラメンコの最小単位によるイスラエル・ガルバンの代表作のひとつ「黄金時代」を上演した。	目標値	1000人
		名古屋市芸術創造センター		実績値	600人
4	愛知芸文フェス モーツァルト作曲 オペラ『バスティアンとバスティエンヌ』	平成30年11月16日 (金)、17日(土)	演出：太田麻衣子 指揮：角田鋼亮 出演：伊藤晴／柴田紗貴子 ほか 管弦楽：愛知室内オーケストラ 若い男女の恋物語を題材とした、モーツァルトが12歳の時に作曲された最初期の演目『バスティアンとバスティエンヌ』を上演。単なる上演ではなく、公演前半に上演演目と関連のある作品による構成を加えて、独自のスタイルによる2部構成で公演全体をアレンジメントすることで、演目そのものにも、より膨らみのある意味を付加した内容とした。	目標値	400人
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	505人
5	愛知芸文フェス クリスマスはオルガンだ！ 2018	平成30年12月21日 (金)、22日(土)	都築由理江(オルガン)、服部孝也(トランペット) クリスマス時期のコンサートであることを意識させることで興味を喚起させ、クリスマスの雰囲気のあるプログラムで実施した。演奏者自身によるトークを織り込み、聴衆に演奏者へ親近感をもってもらうと共に、パイプオルガンについての話題も盛り込み、楽器についての関心も高めてもらった。演奏を聴くことに加えて、大型スクリーンに演奏風景をリアルタイムで投影することにより、演奏を「見る」楽しみを上乘せた。	目標値	3000人
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	2290人

(2) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
6	バレンタイン・オルガンコンサート～ダニエル・ザレツキー	平成31年2月8日 (金)	オルガン：ダニエル・ザレツキー（ロシア） バレンタインのコンサートであることを意識しつつも、オルガン・ソロでない現実が難しい、楽器の性能を十分に活かしたプログラムとした。大きな意味での「愛」をキーワードとしたプログラムとすることで、バレンタインの雰囲気作りを心掛けた。	目標値	1400人
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	1212人
7	NHK交響楽団定期演奏会 (愛知県芸術劇場シリーズ)	平成31年2月24日（日）	指揮：パーヴォ・ヤルヴィ（N響首席指揮者） 管弦楽：NHK交響楽団 演奏曲目：ストラヴィンスキー・プログラム 交響的幻想曲「花火」他 NHK交響楽団の定期演奏会のうち、サントリーホールで開催される定期演奏会のBプログラムを、そのままの出演者・曲目により愛知県芸術劇場コンサートホールで開催する。どちらのホールも、ステージを取り巻く形状の客席であるだけでなく、ロマン派以降のオーケストラ作品において、挿入楽器として編成に含まれる事のあるシンフォニックタイプのパイプオルガンをホール正面に備える音響面で優れた大規模のホールであるため、ホールの機能を活かしつつ、共通したプログラムを組むことが可能である。	目標値	1600人
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	1685人
8	声明 四箇法要「花びらは散っても花は散らない」附 宮内康乃作曲《海霧讃歎》	平成31年3月2日（土）	出演：声明の会・千年の聲（天台・真言両宗の僧侶 30名） 構成・演出：田村博巳 演目：日本最古の聲明曲「四箇法要（しかほうよう）」他 古典聲明と新作聲明から構成されるコンサート。日本音楽の源流の一つであり、キリスト教のグレゴリオ聖歌と並ぶ宗教音楽である「聲明」は、その音楽性からアカペラの音楽としても非常に魅力的である。男性僧侶たちの鍛え上げた声により自由リズムで唱えられ、倍音が重なり、濃密な音響空間を体感できた。	目標値	1200人
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	1205人
9	ダンス・コンサート Manuel Legris 『Stars in Blue』 BALLET & MUSIC	平成31年3月17日（日）	演出・出演：マニュエル・ルグリ（ウィーン国立バレエ団芸術監督） 出演：オルガ・スミルノワ（ボリョイ・バレエ プリツパル）他 演奏：三浦文彰（ヴァイオリン）他 振付：パトリック・ド・バナ 平成27年度にパリ・オペラ座エトワール・ダンサーのエルヴェ・モローがNYのカーネギーホールからスタートした「バレエと音楽の饗宴」を、日本向けに再演出して、ツアー公演を行った。当館でも「月夜に煌めくエトワール」と題して、ヴァイオリン、ピアノとバレエダンサー3名の計5名によりコンサートホールでダンスと音楽の夕べを開催。今回は、大反響となったこの公演の成果を継承しつつ、座長をマニュエル・ルグリに依頼し、さらに発展させた公演を企画制作した。	目標値	1000人
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	1086人

(2) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
10	愛知県芸術劇場ミニセレクトダンス・セレクション	平成30年10月6日 (土) 8日(月・祝)	出演：≪10月6日≫+81、康本雅子、ブッシュマン ≪10月8日≫白井剛、小暮香帆、オトリヨセ企画 6組のダンサーが30分程度の作品を連続上演する公演。過去に上演され、独自の作風を持つ振付家・ダンサーによる、話題を呼んだダンス作品を、トリプル・ビルの形で一挙に紹介した。	目標値	290人
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	258人
11	愛知県芸術劇場ミニセレクトサウンドパフォーマンス・プラットフォーム2019	平成31年2月9日 (土)、11日(月・祝)	出演：公募出演者(大久保雅基、杉野晋平、dobby/仮説、Affine、signal compose、大所帯非楽器アンサンブルPOLY!)、ゲストアーティスト(夏の大ム、藤田陽介、電力音楽、Hair Stylistics) 音を用いたパフォーマンス作品は、いわゆる現代音楽にとどまらず、ダンスのように身体性を重視したもの、演劇のように言葉に着目したもの、1960年代の「イベント」「アクション」「パフォーマンス」など美術系のものや映像を伴うものまで、非常に多様である。こうした現状に着目し、音を核にしているという点だけに依拠してそのほかあらゆる境界を越えて、ジャンルにとらわれずチャレンジフルで研鑽を積む若いアーティストや、中堅からベテランのパフォーマーまで、その作品を探し出し、上演した。	目標値	450人
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	183人
12	第18回AAF戯曲賞(募集・選考・審査会)	平成30年6月1日(金)：募集開始/7月31日(火)：募集締め切り/10月～11月：審査員による1次・2次選考会/平成31年1月6日(日)：最終審査(公開審査)	審査員：篠田千明(演出家・イベント) / 鳴海康平(第七劇場主宰・演出家) / 羊屋白玉(指輪ホテル主催、演出家・劇作家・俳優) / 三浦基(地点代表・演出家) / やなぎみわ(演出家) 募集及び審査 全国から戯曲を募集し、2回の予備審査を経て、公開審査会によりAAF戯曲賞大賞・特別賞を選定した。 公開審査会 審査員5名と応募者が同席する会場で議論のうえ、大賞及び特別賞を決定した。	目標値	100作品
		愛知県芸術劇場 小ホール他		実績値	109作品+75人
13	アーティスト人材養成事業	通年	(1)合唱団養成 講師：大島義彰(合唱指揮) (2)オルガニスト養成 講師：都築由理江(当劇場オルガニスト) (3)振付家・ダンサー養成 ①岡登志子ダンスワークショップ in 愛知 ②フォーサイスのメソッドに基づくコンテンポラリー・ダンス・ワークショップ/ありか再演関連事業 講師：島地保武 ③ダンス・セレクション関連『踊る』『語る』『集う』 講師：Opto(湯浅永麻、小尻健太) ④NDTメソッドに基づくコンテンポラリー・ダンス・ワークショップ 講師：Opto(湯浅永麻/小尻健太) ⑤マニユエル・ルグリ トークイベント/ダンス・コンサート関連事業 講師：マニユエル・ルグリ、シルヴィア・アッツオーニ (4)ワークショップリーダー養成プログラム 講師：吉野さつき(ワークショップコーディネーター)、倉品淳子(俳優・演出家)	目標値	50人
		愛知芸術文化センター アートスペースA 他		実績値	263人

(2) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
14	愛知県芸術劇場 平成30年度舞台芸術人材養成ラボ	通年	(1) 実践実習プログラム:舞台芸術インターンシップ(企画制作・広報コース、舞台技術コース) 対象:舞台芸術に関わる仕事に就きたいと考えている学生や、舞台芸術に関わる仕事を始めた若手制作者 (2) 職場体験プログラム:学生インターンシップ及び舞台芸術お仕事ナビ 対象:芸術大学等でアートマネジメントを学ぶ学生や、一般の大学に在籍し芸術文化の振興に関心のある学生 (3) 技能習熟プログラム:劇場職員セミナー(企画制作・広報コース、舞台技術・劇場運営コース) 対象:公立劇場や市町村の文化振興担当者のうち、概ね4年以上の経験者 (4) 創造制作プログラム:舞台芸術創造セミナー 対象:制作者や芸術文化コーディネーター等、舞台芸術に関わる者 (5) 普及啓発人材プログラム:ワークショップ等 コーディネーターセミナー ワークショップリーダー等が地域でワークショップを実施し活躍するための基礎となる知識・技能が得られる講座	目標値	250人
		愛知県芸術劇場 小ホール他		実績値	914人
15	劇場と子ども7万人プロジェクト 舞台芸術鑑賞教室『寿歌』(小中学生学校招待公演)	≪知立公演≫平成30年6月13日(水)、14日(木)、15日(金) ≪小牧公演≫平成30年6月22日(金)	作:北村想/演出:宮城聰 出演:奥野晃士、春日井一平、たきいみき(SPAC俳優) 愛知県芸術劇場とSPAC-静岡県舞台芸術センターが共同企画として創作した現代演劇『寿歌』の学校招待公演を行った。事前に学校を通じて作品に関する資料を配布し、上演後に演出家や出演者との交流時間を設ける。鑑賞だけでなく総合的に舞台芸術やアーティストに興味関心・親しみを持ってもらえるように工夫した。	目標値	1500人
		パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)、小牧市市民会館		実績値	1665人
16	劇場と子ども7万人プロジェクト 舞台芸術鑑賞教室『ありか』(小中学生学校招待公演)	平成30年6月26日(火)、28日(木)、29日(金)	出演及び演出:島地保武、環ROY 振付:島地保武/音楽:環ROY 出演は、世界的な振付家のウィリアム・フォーサイス率いるフォーサイスカンパニーで活躍していた舞踊家の島地保武。及び、ラップ・アーティストとして、異ジャンルのアーティストとのコラボレーションやNHK教育テレビでも活躍する異色のラッパー環ROY。先鋭的かつ質の高い作品として、県内小中学生に鑑賞してもらった。事前に学校を通じて作品に関する資料を配布し、上演後に出演者との交流時間を設けた。鑑賞だけでなく総合的に舞台芸術やアーティストに興味関心・親しみを持ってもらえるように工夫した。	目標値	750人
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	528人
17	愛知県芸術劇場ファミリー・プログラム『小さな島とエヴァ』公演&県内市町村ツアー	≪栄公演≫平成30年8月4日(土)、5日(日) ≪幸田公演≫平成30年8月8日(水) ≪豊川公演≫平成30年8月10日(金) ≪稲沢公演≫平成30年8月12日(日) ≪千種公演≫平成30年8月15日(水) ≪碧南公演≫平成30年8月15日(水) ≪小牧公演≫平成30年8月19日(日) ≪知立公演≫平成30年8月22日(水)	演出:Sam Routledge/作:Finegan Kruckemeyer デザイン:Jonathon Oxlade/作曲・演奏:Dean Stevenson 照明:Nicholas Higginsプロダクションマネージャー:Andrew MacDonald/人形遣い:Felicity Horsley(以上、タスマニアン・パペット・シアター) 出演(ナレーター役):川上珠来(名古屋市在住) オーストラリアのタスマニアを拠点に活動するタスマニアン・パペット・シアターを招聘し、代表作『小さな島とエヴァ』を、地元在住の日本人俳優を起用した日本バージョンとしてリクリエーションした。 愛知県芸術劇場小ホールを皮切りに、愛知県内でツアーを行い、多くの子どもたちや保護者の方に観劇体験やアーティストとのふれあいを提供した。	目標値	1000人
		愛知県芸術劇場小ホール、幸田町民会館、豊川市御津文化会館、名古屋文理大学文化フォーラム(稲沢市市民会館)、名古屋市千種文化小劇場、碧南市芸術文化ホール、小牧市東部市民センター、パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)		実績値	1116人

(2) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
18	愛知県芸術劇場ファミリー・プログラム ワークショップ&げきじょうたんけんツアー	(1) 平成30年8月1日(水) (2) ①平成30年8月17日(金)、18日(土) ②平成30年8月17日(金)、18日(土)、19日(日) (3) ①平成30年8月23日(木)、24日(金) ②平成30年8月24日(金)、25日(土)	(1) げきじょうたんけんツアー 講師:劇場職員 他 初めて劇場を訪れるような小学校低学年の子供たちを対象にした楽しい探検ツアー (2) ダンスワークショップ ①オリジナルなダンスをつくろう! 講師:古家優里(振付家・ダンサー) 小学校高学年の子供たちを対象にした、ダンス体験ワークショップ ②赤ちゃんと踊ろう 講師:古家優里(振付家・ダンサー) 乳幼児及びその保護者を対象にしたダンス体験ワークショップ (3) えんげき de コミュニケーション! 講師:振子びじん、佐々木文美 他 小学校高学年の子供たちを対象にした、演劇体験ワークショップ	目標値	200人
		(1) 愛知県芸術劇場小ホール、(2)(3) 愛知県芸術文化センター アートスペースA		実績値	265人
19	普及啓発事業	通年	(1) 乳幼児と保護者のためのプログラム 未就学児連れで参加できるコンサートやダンスワークショップを開催した。 (2) 入門者のためのプログラム 舞台芸術に触れてみたい人のために、初心者を対象としたワークショップや、お茶を片手に気軽に参加できるトークやレクチャーなどを開催した。 (3) より深く楽しみたいコアファンを増やすためのプログラム 鑑賞公演や創作公演に関連した内容を、より深く体験し、広く深い知識をもって鑑賞できるようになるための実演付レクチャーや講座やワークショップを行った。 (4) 障害者及び劇場に来づらい人のためのプログラム 視覚や聴覚の障害者が公演を楽しめるように事前に特別な解説を行ったり、サポートを実施した。また劇場を訪れる機会の少ない児童養護施設児童等を対象に招待公演を行った。 (5) 在住外国人のためのプログラム 親子のダンスワークショップを外国人住民との交流プログラムとして実施した。	目標値	800人
		半田市福祉文化会館 他		実績値	1122人
20	ご近所連携 栄北エリア連携事業『久屋ぐるっとアート』	平成30年11月2日(金)~4日(日)	《イスラエル・ガルバンとフラメンコを踊ろう》 フラメンコの名手、イスラエル・ガルバンの指導に基づき、全くの初めての人も含めてみんなでフラメンコの一場面を踊るワークショップを開催し、実際に踊った。 《栄まちじゅう音楽広場》 愛知県吹奏楽連盟の協力を得て、多数の吹奏楽団が参加・演奏する野外コンサート。例年開催されているこの催しを共同で開催することにより、より多様な参加者を得た。 《フォーラムシアター2018》 地元を拠点に活動するダンスグループや劇団によるミニ公演を開催した。 《あそびシアター by AAC》 アートの要素を含めながら親子で参加できて楽しめるワークショップを開催した。	目標値	5000人
		愛知芸術文化センター、愛知県芸術劇場、オアシス21、名古屋テレビ塔、NHK名古屋放送局、セントラルパーク 他 栄北地区一帯		実績値	46000人
21	バリアフリー対応	通年	(1) 聴覚障がい者対応 ①赤外線補聴システムの使用 ②字幕設置 ③ポータブル字幕使用 (2) 視覚障がい者対応 ①触る舞台美術模型を使用した開演前舞台説明 ②開演前の説明会 ③点字プログラムの作成 (3) 障がい者向け対応周知チラシの作成 (4) 視覚障がい者への開演前の説明会のブレ実施と対応訓練	目標値	—
		名古屋市芸術創造センター 他		実績値	—

(2) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
22	多言語対応	通年	(1) ファミリー・プログラムの多言語版のチラシの作成 (2) コンサートホール公演(クリスマス、パレタイン、N響、聲明、ダンスコンサート)まとめチラシの英語版の作成 (3) 「聲明」公演における英語字幕の投影 (4) 「ダンス・コンサート スターズ・イン・ブルー」公演における英語資料の作成 (5) ワークショップ『赤ちゃんと一緒にダンス!』の実施	目標値	—
		愛知県芸術劇場コンサートホール 他		実績値	—
平成30年度の目標値、実績値				目標値	20,590人＋100作品
				実績値	61,535人＋109作品

【妥当性】

自己評価

事業計画に必要な構成要素が関連し、当初の予定通りに事業が進められているか。

国内有数の文化芸術施設である愛知芸術文化センターの一翼を担う県芸術劇場として、「劇場による地域向上プロジェクト」に掲げた6つのプロジェクトを進め、ミッション達成に向けて予定通り事業を進めた。

創造・発信力強化のため、2020年度に設置する芸術監督の決定と公表を行い、愛知から国内外に発信するだけでなく、AAPPAC（アジア太平洋パフォーミングアーツ連盟）への参加や専任のプロデューサーたちの海外調査などにより、「ON VIEW」など、香港やオーストラリアとの国際連携事業がスタートしており、さらなる国際プレゼンスの向上につなげていく。

また、芸文センター自体は大規模改修のピークの時期で、ホール休館期間が多かったが、リニューアルオープンしたコンサートホールや小ホールを活用して、「ダンスコンサート」や「声明」等のボーダレスな公演を創造・発信するとともに、多種多様な表現活動と鑑賞機会を提供した。その他、プロデュース作品や海外招聘作品の県内外でのツアーなど、他県や県内市町村劇場との連携に力を入れた他、アーティスト人材養成の拡大に着手した。

さらに、普及啓発については、市町村劇場や教育機関との連携を密にし、「劇場と子ども7万人プロジェクト」の具体的な将来計画を策定するとともに、対象別（乳幼児、入門者、コアファン、障がい者など）のプログラムを整理・充実させた。

社会課題への取組みとしては、近隣地域とのアートイベントの新規実施により、地域の魅力の再発見・発信につなげるとともに、行政機関とも連携し、障がい者・外国人・子育て中に関わらず、文化芸術を楽しむことのできる環境整備に尽力した。（682字）

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

①乳幼児と保護者、②初心者、③コアファン、④障がい者及び劇場に来づらい人、⑤在住外国人の5つの方向で事業を実施したが、このうち障がい者や在住外国人等に対し鑑賞支援や交流ワークショップを新たに実施。特に視覚障がい者への開演前の説明会や職員の対応研修を行ったことで、視覚障がい者の主催事業への来場が増えており、関連団体等と連携して社会課題の解決の一端を担うことで、劇場としての可能性を広げることができた。在住外国人に対しても、新たに県多文化共生室やNPO等と連携して事業を行ったことにより、将来の展開、発展が期待できる。

「劇場と子ども7万人プロジェクト」については、将来計画を策定し、学校単位で当劇場での招待公演を行う他、市町村劇場に出向いて公演を実施した。これにより、その後の市町村独自実施を促し、参加市町村を増やすことで着実に推進していく。

また、近隣商業施設等との連携によるアートイベントについても新規に実施したところ、20団体の参加があり、延べ4万6千人の来場があった。単なる公共の文化施設から、共にまちづくりや活性化を考えていく地域の劇場として、参加団体からも期待され、劇場に対する見方の変化を感じており、今後も継続して実施していく。（518字）

【有効性】

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

指標に掲げた2018目標はほぼ達成しており、アウトカムの発現は可能と考えている。目標値は、全職員が参加してつくった「中長期計画」(2016年度策定)に基づいたものが採択されたことにより、事業の意義について、職員一人ひとりの意識が一層高まったと思う。

また、プロデュース作品の県内外ツアーや、「劇場と子ども7万人プロジェクト」を前進させたことなど、今まで実行できなかったプロジェクトの数々が、次々と実行できており、その事実が職員のモチベーションをさらに向上させている。つまり、アウトカムは来場者から発現されるものばかりではなく、職員の意識向上といったものも少なくなく、劇場の組織強化にもつながった。

普及啓発事業は、①対象者の年齢(ライフステージ)、②出発点・到達点、③(身体的・精神的・言語的)阻害要因、を意識しながら立案することで、単なる顧客拡大のための普及啓発ではなく、従来からの劇場来場者だけではないあらゆる人々を「劇場の顧客」としていく取組みをスタートできた。外部委託調査の結果からみても、「文化芸術を取り巻く環境が、文化芸術以外の政策分野を起点として変化する」とされており、当劇場が進めている事業の方向性は正しいといえる。

今後の課題は、定性評価の指標をどう定めるかが挙げられる。自主事業実施後、事業ごとに来場者アンケート調査結果や担当者所感などを基に、職員による評価会を実施しているが、例えば、人材養成は中長期的な取組みであり、そのための仕掛けを考えていくべきである。

いわゆる“セミプロ”を対象とするプログラムなどは、受講した者たちに対する(顕在的な)ニーズを、普及啓発事業の実施などによって作っていくことも同時に求められ、「舞台芸術人材養成ラボ 普及啓発プログラム」のように、舞台芸術コーディネーター等を養成することで、需要と供給を同時に提案していくことが必要である。(780字)

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

2018年度の各事業について、事業期間については当初計画に基づき適切に事業を進めている。事業費については、アウトプット達成に向け進めているものの、入場者数が伸びず、結果として収支比率が目標に達しなかったものもあった。一方、外部委託調査によると、大規模改修工事の影響が大きいため、助成金との連関は証明しがたいものの、普及啓発や人材養成事業が大きく推進してきていることが明らかになっている。今後も定期的かつ継続的に調査を実施することで、当劇場が新たな方向へ大きく舵を切った軌跡を証明したいと考える。

また、他館との共同制作事業を進め、創造性・発信性の高い事業を実施するとともに、他分野との連携（特に社会課題を解決するもの）においては、関係機関との連携やリサーチを事前にしっかり行うことで、ニーズを細やかに適切に把握し、新しい取組みを求めている人に確実に届け、事業実施後のフィードバックも得られるよう努めた。これにより、特に視覚障がい者に対して、関係団体や県内市町村との連携で、開演前の説明会や役員も含めた職員研修など、具体的な取組ができ、これが視覚障がい者の来場増加に確実に繋がっている。その他、多文化共生関係部署への適切で積極的なアプローチにより、在住外国人に向けたワークショップの開催に繋げるなど、非常に効率性の高い取組みが行われている。

さらに、そのノウハウを『劇場職員セミナー』等で県内市町村劇場と共有するなどして、圏域全体での効率性にも留意した。（623字）

【創造性】

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

2つのフェスティバルとミニセレシリーズで劇場の事業展開の特徴づけを行い、公演を実施した。2018年度前半は大ホールとコンサートホールが同時に休館となり、劇場内では小ホールと11月にリニューアルのコンサートホールを最大限に活用すると共に、劇場外での事業に積極的に取り組み、劇場館長を含めた複数の専任プロデューサーが互いに議論を重ねながら事業を組み立てた。

2020年度からは、世界的な振付家・ダンサー・演出家の勅使川原三郎氏を芸術監督に迎えることとし（2018年度公表）、より一層の発信力強化につなげる。

1 プロデュース公演と全国展開

オペラ『バステリアンとバステイエンヌ』を始め、ダンス、演劇、音楽など、新たな作品をプロデュースし、県内外の劇場で上演することができた。また、過去のプロデュース作品を県内外9カ所の劇場で再演し、愛知からの創造・発信につながっており、2019年度以降の県外展開にもなっている。

その他、『小さな島とエヴァ』翻訳初演など、新演出や改定初演などの、プロデュース公演を実施し、一部は県内市町村劇場を巡回した。

2 共同制作・共同招聘

『ダンスコンサート』など、1館では実施が難しい大規模な公演を、国内の先進劇場と連携して行った（東京、大阪、宮崎）。巡回公演にあたっては、テレビ局が公演を買い取るなどの官民協力もあった。

3 オルガン公演

オーバーホールを終えた日本最大級のオルガンを活用し、これまで年1～2回程度であった公演を、年間4回程度、対象者や目的を変えて、子どもから初心者、リピーターまであらゆる方にオルガンの魅力を堪能していただけるコンサートを実施している。県内に拠点を置く若手の専属オルガニストも新規に設置し、自主事業での演奏や企画アドバイス、若手人材（オルガニスト）養成、オルガンのメンテナンス等、全方向から当劇場のオルガンをサポートしてもらい、劇場とともに歩むオルガニストとして活動を継続する。

4 人材養成事業

地元人材による専属オルガニストの新規設置により、新たに「オルガニスト養成」を行い、この地域でのアーティスト育成を大きく進めることができた。また、これまで単発で行ってきたスタッフとアーティストの人材養成を、体系的な構成で、小人数制、報酬型インターンシップとして行うこととし、プレイヤー育成だけではなく、この地域全体での舞台芸術の振興やアーティスト活動の環境整備につなげることができた。

5 普及啓発事業

①乳幼児と保護者、②初心者、③コアファン、④障がい者及び劇場に来づらい人、⑤在住外国人の5方向で事業実施した。特に視覚障がい者に対しては、関係団体や市町村との連携で、新規に開演前説明会や職員研修などの具体的な取組ができた。社会課題解決の一端を担うことで、従来からの劇場来場者だけではないあらゆる人々を「劇場の顧客」としていく取組みをスタートでき、今後も継続していく。子どもを対象とした公演等についても、市町村や教育機関と連携して進める。（1217字）

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

最大のステークホルダーである愛知県とは、県文化政策推進のための拠点施設として、県からの期待を受け、条例や計画に沿った活動を行っている。また、県立劇場として、名古屋市文化振興事業団と連携協定を結んでいる他、市町村劇場との事業連携、民間ホールやAAPPACとの定期的な情報共有など、ステークホルダーと相互補完することで共存共栄を図っている。

先駆的・実験的な自主事業、大規模かつ最先端な事業の実施、研修、見学等の受け入れ、専門性の高い職員の研修講師や各種委員としての派遣等により、拠点劇場としての劇場のプレゼンスは向上。また、人材養成事業における様々なセミナーでは、「交流」を重要な要素と定め、圏域の人材や情報が交流するプラットフォームとしても機能している。

なお、2017年度事業ではあるが、ミニセレの音楽公演に対し第17回佐治敬三賞を受賞。ミニセレの方向性が認められた。（374字）

【持続性】

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

愛知県芸術劇場の事業は、『愛知県文化芸術振興条例』と、『あいち文化芸術振興計画2022』に位置づけられており、県の文化施策の重要な一翼を担っている。これは、設置者である県による劇場の持続的な活動への裏付けであり、今後も県からの支援を受けつつ積極的に事業実施に努めていきたい。

事業実施によってより強くなった市町村劇場との関係の強さを活かし、プロデュース公演の県内ツアーや「劇場と子ども7万人プロジェクト」の市町村劇場での実施などにより、県内公立劇場の水準を共に上げていくことで、拠点劇場としての役割を大きくしていく。

また、他館との共同制作事業を進め、創造性・発信性の高い事業を効率的に実施するとともに、他県とのネットワークを強固にし、より水準の高い事業実施につなげる。また、2020年度からの芸術監督設置に向けての体制づくりと、国内外に対し創造発信力のより一層の強化につなげていく。また、所属している劇場関係各種団体（全国公立文化施設協会、公立劇場技術者連絡会等）の要職にも従事しており、劇場としての存在感の強化、維持につなげている。

自主事業終了後は、全部署から職員が集まり「評価会」を実施。定量的・定性的な評価とともに、抽出した課題（特に制作・運営面）についてディスカッションすることで、次回への改善に努めている。

人事体制としては、専門性と持続性が重要となるポジションについてはプロパー化を進め、そのうえで県とのつながりも踏まえた県派遣職員の適切な配置を行っていくことにより、県の文化施策の推進に寄与しつつ、劇場としての組織の強化、維持できる体制としていく他、『人材育成計画』を策定するとともに、Off-JTも計画的に実施する。

また、企業等へのチケット団体斡旋を進める他、法人会員について現在制度検討を進めており、より安定的な経営戦略に結び付け、アウトカム・アウトプット発現の持続性の定着につなげていく。（791字）

